

令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」 <埼玉県行田市教育委員会>

(AIの活用による英語教育強化事業/AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)



- ☒ 話すこと ☐ 書くこと
- ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
- ☒ 授業での活用
- ☒ 家庭学習での活用
- ☒ パフォーマンステストでの活用
- ☒ 課外活動での活用

実践のポイント

積極的に会話をし、自信をもって話す児童生徒の育成

実証概要

<校数>10校(小学校:2校、中学校:8校) <人数>2,069名(小学校:340名、中学校:1,729名)
 <学年>小学校:第5、6学年、中学校:第1、2、3学年 <アプリ等> Terra Talk(ジョイズ株式会社)
 <AI機能について>クラウド型アプリケーション。シチュエーションごとの英会話や、義務教育で使う検定教科書の準拠教材を扱う。単語、音読、AIとの会話について発音・文強勢・流暢さの観点で評価・フィードバックを行う(音読、流暢さについては中学校での指導事例)。生成AIによるチャットでは、本物らしく、学習者の発言を理解した対話を行い、対話終了後、助言を行う。

AIの効果的な活用方法や取組 (小・中学校におけるAI英語モデル校事業)

●発話練習を通じた学習意欲の向上

AIを活用してパターンプラクティスや教科書の音読、単語の発話練習に粘り強く取り組み、学習意欲が向上したことがアンケートの結果や日頃の英語を用いた会話の頻度からわかる。長文を話すことができるようになったり、発音や文強勢を意識するようになったりするなど、AIを活用した会話のやり取りが確実な発話技術の向上につながった。



短時間で
集中的に
AIとの会話

●ロールプレイやAIチャット(生成AI)で場面別会話練習

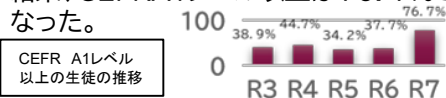
授業冒頭のスモールトークや終末の演習で、既習事項を使ったロールプレイをAIと行うことで、短時間に個人のペースで学びを振り返り、スムーズに本時の学習に取り組んだり学びを深めたりすることができた。また、既習事項の定着につながり、普段の会話に生かせるようになった。
 中学校では、会話に自信をもてるようになったらAIチャット(生成AI)で、該当学年の文法枠を超えた、より本物に近い自然な会話練習に挑戦。自分の英語力を試し、AI及び教員からの問いに正対した解答となっている。適切な助言を受けることで英語力を総合的に伸ばし、パフォーマンステストでは表現の仕方に広がりが見られた。



実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

小学校では、会話パターンに慣れ他者との発話意欲が向上した。中学校では、中間・期末テスト等で以前より高得点につながった生徒が増えた。GTEC受検の結果、CEFR A1レベル以上は76.7%となった。



CEFR A1レベル以上の生徒の推移

②児童生徒の関心・意欲の変化

ALTや教員、または子供同士の普段の英語での会話から、コミュニケーションを楽しんでいる様子が多く見られるようになった。発話技術の達成度に応じて表示される「金・銀・銅」のトロフィーが、児童生徒の自己肯定感の向上にも効果的で、何度もAIを用いて会話のやり取りをする様子が見られ、自発的な発話量も増えた。

③教師の指導の変化

AIからのフィードバック等、授業中の児童生徒の学習状況の見取りの視点が広がり、いろいろな角度から児童生徒の英語力を把握・評価できるようになり、児童生徒がどんなところにつまづいているか課題を把握でき、個別最適な指導につなげることができた。的確な中間指導に結びついた。「話すこと」の意欲の向上は、会話パターンの習得につながり、AIとの会話のやり取りが「話すこと」だけでなく、4技能において意欲を向上させた。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●授業の進め方改善のための夏季研修会&AI活用のための授業研究会

授業の進め方改善のため、夏季研修会を実施した。また、6月と12月に、教師・ALT・AIのベストミックスとなる授業の構築に向けて、小学校1校・中学校1校を抽出し、AI英語活用リーダーとALTが校種を越えて授業の相互視察や意見交流を実施した。AI活用のノウハウを共有することで、英語の授業における教師・ALT・AIのそれぞれの効果的な活用バランスを検証した。小中連携の観点からも、共通理解につながり有効だった。



夏季研修会



AI活用のための授業研究会

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

- 【成果】**一人一人の発話速度に合わせて個別で練習ができるので、言語活動への意欲向上に大きな効果があった。AIとの会話練習の実践で、児童生徒の発話量の増加や、英語を話すことへの自信の醸成を促すなどの効果が見られた。
- 【課題】**児童生徒がAIとの会話練習で詰まった際、AIは相手の返答を待ち続けるため、対面のような切り返しりのやり取りが生まれにくい。また、会話が英文で表示されるので、音声よりも表示の英文を読むことに気がいってしまう場合もあった。
- 【今後】**AIからのフィードバックを発話技術の向上や次の学習へどう生かしていくかを児童生徒が自発的に考え、学びを深められるよう、学習ツールとして活用しながら、教師・ALTのベストミックスとなる授業を構築する。